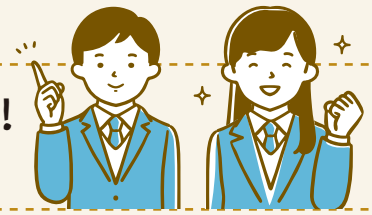
i.i.STORY 特別版

今治北高生が木野山ゆうさんにインタビュー!

i'm into Imabari!



File:18

Person

モデル・女優　木野山 ゆうさん

モデル・女優として活躍されている木野山ゆうさん。優里やマカロニえんぴつなど、多くの人気アーティストのミュージックビデオに出演され、一躍注目を集めました。今回、木野山さんに出演していただいて、今治ブランド戦略会議と木野山さんの母校・愛媛県立今治北高等学校の放送部が共同で今治の魅力発信動画を制作することになり、木野山さんの今治愛や、今治の思い出について語っていただきました。

今治が地元でよかったなと誇りに思う

今治北高生がインタビュー‼

Q　今治に帰省する際、必ず会う人や行く場所はありますか？

A　必ず会う人とかすることは特に決まってはないかな〜。ずっと食べたり寝たりして家でゆっくり過ごしてる(笑)。そのために帰ってる、みたいな感じだからね。少し前までは、友達と会ったりもしてたんだけど、最近は家で家族と過ごしてるかな。

家族の料理で好きなのは、お刺身とかせんざんき(唐揚げ)とか。一番好きなのは鯛めし。好きなのを知ってるから、毎回作っていてくれるんだよね。今治に帰って来るたびに特にお刺身がおいしいって感じてる。

帰省してよく行くのは、糸山の展望台とか。ドライブがてら海を見によく行ったりはしてるかな。自然を見るのも好き。

Q　中高時代の思い出について教えてください。

A　中学時代は、学校がちょっと荒れてる時期だったこともあって(笑)、激しめの学生生活を過ごしてたかも。でも、友達との思い出は楽しくてずっと覚えてる。当時は反抗するのがかっこいいっていう雰囲気もあったから、先生方に反抗したり。思い返せば恥ずかしいけど、それも今では懐かしい、いい思い出かな。

高校時代は、ほぼ部活の思い出しかない。ハンドボール部に所属していてキャプテンもしていたけど、文武両道って言われてきて大変だった。厳しかったし。でも、今となってはやっていてよかったなと思うことばかり。それで鍛えられて強くなったから。

中高時代の夢は、学校の先生になること。けど、自分たちが先生に反抗しすぎて、自分がその立場になって反抗する生徒たちをまとめるのは無理だな〜と(笑)

Q　モデル・女優のお仕事で印象に残っている仕事はありますか？

A　初めて受けたオーディションに受かったことかな。上京したばかりで、モデルを始めた時、両親に反対されたりもしたけど、オーディションに受かったことで続けていく自信にもつながった。それと、ミュージックビデオに出演させてもらった時のことも印象に残ってる。私はもともとマカロニえんぴつさんのファンだったんだけど、ミュージックビデオに出てほしいと頼まれたのがマカロニえんぴつさんの楽曲で。その仕事が来たときはとても嬉しかった。

File:18

仕事は毎日違う人と出会ったり、話したりでとても新鮮で楽しいし面白い。私は会社や学校のように、毎日会う人が決まっていてその中でうまくやれるタイプじゃないから、今の仕事は自分に向いてるんだなって感じる。でも、まさか上京してモデルをするなんて思ってなかったから、本当に人生って何が起こるかわからないなって思うよ。

Q　SNSでの木野山さんの雰囲気はかなり違って見えますが、本来の性格はどんな感じですか？

A　私自身、どれが本当の自分かわかってないんだけどね（笑）。毎日いろんなところに行って、いろんな人と話したりするけれど、どれがほんとの自分なんやろ？と思うこともあるし。仕事中も役作りや演技で違う誰かを演じていたりしているからわからなくなってくる。でも、Xが一番本来の自分に近いかな。カッコつけた感じが苦手で、極力自然体でいたいタイプだから、Xでだけは許してくれ〜って思いながら投稿してる。Xのアカウントをフォローしてくれて、好きになってくれた人は、私のことを一生好きでいてくれる自信があるかな。Instagramとはまた感じるイメージが違ってくるけれど、私自身もXの方が好きだしね。

Q　今治合併20周年記念のイベントなどに参加されて感じたことはありますか？

A　今治市全体がすごく盛り上がってるっていうのを特に感じたかな。東京でも造船とか今治タオルを知ってくれている人が増えて、今治の話題で盛り上がれるようになったし、それを踏まえてイベントに参加しても人が多くなった。それに移住者が島とかでレストランを開いているなどの話を聞いて、すごく誇らしくなった。ここ今治が地元でよかったなって。

東京と今治は全然違っていて、東京では様々なことがあるし、いろいろ自由にできるけれど、今治のように「協力して何かをする」っていうのはしにくい。東京は何事も勝負！って感じだけれど、今治は全然そんな感じはなくて、「味方感」が強いかな。一人ひとりが地元を好きでいる、っていう感じがあるよ。

あなたの i'm into をおしえてください

「東京は毎日勝負をする場所。今治に帰ってくるとみんな仲間みたいなマインドになる。今治の人は味方感が強い。」という木野山さん。帰省すると実家でごはんを食べて、家族や親せきとゆっくり過ごすことが多いそう。
豊かな自然に癒されて力を蓄えたらまた東京での勝負の世界に戻っていく。木野山さんにとって今治は、ただそこにいるだけで自分を肯定できる場所、「そこにあり続ける」というやわらかな確信が持てる場所なのかもしれません。
「I' m into 今治」木野山ゆうさんは今治に夢中です！

公式Instagram　公式X　NUMBER EIGHT WEBサイト